資料

「ハンス・ケルゼン関係邦語文献年表
―一九二〇―一九八一年―」

山下威士

はじめに

一、本文献年表は、ハンス・ケルゼン及び純粋法学に関して邦語及び日本人によって書かれた文献を、その発表年順に整理したものである。もちろん、「ケルゼン関係」の文献と称しても、その「関係」の理解の仕方により、採録文献の選択に研究者それぞれ異論もあり得ると思われる。ただ本年表は、次に述べるような成立の事情と、当該項目を後になって抹消するのは容易なことであることから、「関係」ということばをできるだけ広く解して文献を採録している。

二、本年表は、もともと昭和五六年度日本公法学会第四六回総会において行なわれた私の口頭報告「ハンス・ケルゼンと日本の憲法学」のための参考資料として、報告時に会場において配布されたものである。当日時間の関係もあって、日本の法・憲法学者がケルゼンの純粋法学についてどのような論文を書いているかというような事実については一切触れずに、私の観点からする問題提起のみを行うことを意図したため、その補充として作られ配布された。この口頭報告については、学会機関誌・公法研究四四号・一九八二、を見ていただきたい。

三、本年表は、前記の如き目的をもって、私の読み得たものを中心にし、ケルゼンの文献史的研究（山下・七一、原秀男・七四・七八・七九、井口大介・七五）及び、法律時報文献月報、その累積版である法学文献総目録・戦後法学文献総目録・日本評論社、さらに国会図書館雑誌記事索引（人文・社会編）、その累積版、等を参考に作成した。文献は、一九八一年一二月末までに公表されたものに限った。

もちろん、重要な関係文献を見落していたり、文献との照合について私の時間と能力の限界のため完全には行い得ていず、あるいは無関係なものが混入している可能性もあろう。とりわけ文献発表年に前後のズレのある場合もないではなか

ろう。本年表は、その成立の事情からも明らかな如く、あくまでも研究の出発点を示すものであり、これから多くの人々によって補充されて行くべきひとつの「草案」として扱っていただければ幸いである。

四、ケルゼン自身の業績及び欧文文献については、古くは、彼の五〇才記念論文集 Gesellschaft, Staat und Recht, 1931, Wien, 及び、彼の Reine Rechtslehre, 1934, Wien/Leipzig, また Internationalen Zeitschrift für Theorie des Rechts, Jg. 12, S. 217ff., に収められた R. A. MÉTALL 編の「ケルゼン著作集」、最近のものでは、H. KLECATSKY, R. MARCIC, H. SCHAMBECK (Hrsg.), Die Wiene Rechtstheoretische Schule, 1968, Wien; R. A. MÉTALL, Hans KELSEN, Leben und Werk, 1969, Wien, を参照していただきたい。

五、(イ)、文献は、邦訳を先にし、その他のものと区別する。それぞれの順序は邦訳者・筆者の五十音順である。

(ロ)、論文が後に論文集等に再録された場合は、例えば、（→二七・黒田収）のように示す。これは、一九二七年の黒田覚の著作を示す。なお以下「一九」は省略する。

(ハ)、ケルゼンはKと略す。雑誌名は法律時報文献月報文献略語表に準ずる。

(ニ)、ケルゼンの著作は、Hauptprobleme der Staatsrechtslehre, 1911, 2Aufl., 1923,→Hauptprobleme, 1923, のように適宜略す。

六、参考文献は、まったく私の恣意的選択であり、一応の対比を示すものにすぎない。報告の趣旨から昭和二〇年以前にだけ附す。

七、なお本年表の整理・整校に際しては、いつものように妻泰子（文京女子短期大学助教授）から多くの助力を得た。

（一九八二・六・三〇記）

一九二〇（大正九）年

K・田村徳治訳「国家機関の人格」法叢四巻三号四号（Hauptprobleme der Staatsrechtslehre, 1911, の第二〇章の訳）

森口繁治・近世民主政治論

一九二一（大一〇）年

K・田村徳治訳「機関態と代理態」法叢五巻一号（Hauptprobleme, 1911, の第二三章の訳）

恒藤　恭・批判的法律哲学の研究

内務省・国体論史

長谷川如是閑・現代国家批判

美濃部達吉・日本憲法第一巻

一九二二（大一一）年

木村亀二「ケルゼンの法律社会学の方法論」法学志林二四巻一号二号

岡村　司・民法と社会主義

高田保馬・社会と国家

中島　重・多元的国家論

福田徳三・社会政策と階級斗争

一九二三（大一二）年

K・阿武京二郎訳・規範学又は文化科学としての法律学・大村書店（Die Rechtswissenschaft als Norm-oder Kulturwissenschaft, 1916, の訳）

横田喜三郎「ケルゼン・主権の問題」国家三七巻一二号（→七七・横田収）

大山郁夫・政治の社会的基礎

北　一輝・日本改造法案大綱

美濃部達吉・憲法撮要

判例民法第一巻刊行

一九二四（大一三）年

K・黒田　覚訳「規範体系としての国家」法叢一一巻一号二号

三号四号（Der soziologische und der juristische Staatsbegriff, 1922, の第二章の訳）（→二七・黒田・諸問題収）

K・堀真琴訳・国家概念研究・春陽堂（Staatsbegriff, 1922, の訳）

（ザウァー）今川赳夫「ザウァーの新カント派法理学弁護論」国家三八巻三号四号（W. SAUER „Neu-Kantianismus und Rechtswissenschaft im Herbstimmung-Eine Antikritik,“ Logos, Bd. 10, 1921/2, の訳）

シュライエル・黒田　覚訳「ウイン法理学派概観」法叢一二巻一号（F.SCHREIER „Die Wiene Rechtsphilosophische Schule,“ Logos, Bd.10, 1922, の訳）（→二七・黒田・諸問題収）

飯塚敏夫「ケルゼン・神と国家論の梗概」日本法政新誌二二巻二・三号

木村亀二「法律学的方法二元論」国家三巻一号

渡辺宗太郎「ヴェンチェル国家概念に対するケルゼンの批判を読む」法叢一一巻六号（Staatsbegriff, 1922, の第三一章の紹介）

上杉慎吉・新稿憲法述義

末弘厳太郎・農村法律問題

穂積陳重・法律進化論第一巻（―第三巻・二七年）

森口繁治・立憲主義と議会政治

美濃部達吉・行政法撮要

一九二五（大一四）年

K・中村宗雄紹介「Gott und Staat」早法四巻（„Gott und Staat,“ Logos, Bd.11, 1922/3, のドイツ語原文のままの掲載）

黒田　覚「ケルゼンの学説よりみたる形式的法律と実質的法律」法叢一四巻三号（→二七・黒田・諸問題収）

小泉信三「マルクシズムと国家」思想四〇号（H. Kelsen―M. Adler の論争にふれる）

中野登美雄「現象学的純正法学の梗概と其の批判的研究」早政二号四号（F. SCHREIER の紹介）

中村弥三次「ケルゼン教授の新著・一般国家学」早法五巻

平野常治「ケルゼンのマルクス主義批判」国民経済雑誌三八巻六号（Sozialismus und Staat, 1922, の紹介）

堀　真琴「ケルゼンの権力分立論」法研四巻三号
堀　真琴「ケルゼンにおける Staatslehre の地位」国家三九巻一二号（→三〇・堀収）
蠟山政道・政治学の任務と対象・巌松堂
大山郁夫・現代日本の政治過程
尾佐竹猛・維新前後に於ける立憲思想
田村徳治・行政学と法律学
平野義太郎・法律に於ける階級斗争

一九二六（大一五／昭和元）年
クラッベ・山本三吾訳・近代国家観念・久野書店（H. KRABBE, Die Moderne Staatsidee, 1919, の訳）
岩城忠一「福田博士の『レニンの国家理論』とケルゼンの『社会主義と国家』の奇蹟的合致」商学論叢一巻一号
岩崎卯一「ケルゼン教授に逢ふ」岩崎・社会学の人と文献・刀江書院（一九二四年一月のケルゼンとのウィーンでの会見記。本稿の初出誌は筆者未見）
中野登美雄「主権の概念」学苑六号
中田　薫・法制史論集第一巻（―第四巻・六四年）

一九二七（昭二年）
K・黒田　覚訳「純粋法学の発展と其の文献」商学論叢二巻一号（Hauptprobleme, 2Aufl., 1923, の序文の訳）（→二七・黒田・諸問題収）
K・後藤　清訳「法律学的方法と社会学的方法の限界について」法律及政治六巻七号八号九号一一号（Ueber Grenzen zwischen juristischer und soziologischer Methode, 1911, の訳）
K・中野登美雄訳「国家原理提要」早法七巻（Grundriß einer allgemeinen (juristischen) Theorie des Staates, 1926, の訳。後に単行本として大鐙閣より刊行されたらしいが筆者は未見）
（くック）大塚秀雄「純粋法学論」法曹会雑誌五巻九号一〇号（R. HECK, Die Reine Rechtslehre und jungösterreichische Schule der Rechtswissenschaft, 1924, の抄訳）
大沢　章「国際法研究方法について」国際二六巻七号八号九号一〇号

木村亀二「法規の解釈と法律学の対象」国家四一巻三号
黒田　覚・ウイン学派の法律学と其の諸問題・大鐙閣
黒田　覚「法段階説と自然法」法叢一七巻三号（→二七・黒田・諸問題収）
中野登美雄「国法の固有性」早政七号
大津淳一郎・大日本憲政史第一巻（―第一三巻・続巻二巻・三六年）
田村徳治・法律学の価値に関する懐疑
恒藤　恭・法律の生命
中島　重・日本憲法論
美濃部達吉・逐条憲法精義
我妻　栄「近代法に於ける債権の優越的地位」

一九二八（昭三）年

浅井　清・憲法学概論・高原書店
浅井　清・行政法の基礎概念・慶応義塾
浅井　清「行政概念の更新」法研七巻二号
今中次麿・政治学に於ける方法二元論・ロゴス書院
中野登美雄「国家の本質」学苑二三号二四号
森口繁治「国家の法人格に就て」法叢二〇巻一号
矢部貞治「制度としての衆民政」国家四二巻三号
小野清一郎・法理学と「文化」の概念
土田杏村・社会哲学原論
穂積陳重・神権説と民約説
三谷隆正・国家哲学
現代法学全集（日本評論社）刊行開始（―三九巻・三一年）

一九二九（昭四）年

K・堀　真琴訳・社会学的国家概念と法律学的国家概念・春秋社世界大思想全集第四五巻（二四・堀訳の改訳版）
浅井　清・法学的国家論・巌松堂（二八・憲法学概論の改訂第一分冊）
浅井　清「純粋法学的国家概念の創設」法研八巻三号
石井龍吉「ハンス・ケルゼン」新興科学の旗の下に二巻五号（現代ブルジョワ思想家批判号）

今中次麿「現代主権論にあらわれたる国際主義」外交時報五八五号
森口繁治「法の適法性について」法叢二一巻四号
森口繁治「法律学における相と素」法叢二二巻二号
山本三吾「フェアドロスの国際法団体憲法論」早政一六号
横田喜三郎「国際組織法の理論」法協四七巻七号八号

高柳賢三・法律哲学原理
穂積陳重・慣習と法律
森口繁治・憲政の原理と運用
矢内原忠雄・帝国主義下の台湾
法律時報創刊

一九三〇（昭五）年

パシュカーニス・山之内一郎訳・法の一般理論とマルキシズム・白楊社（Е. Б. Пашуканис, Общая теория права и марксизм, 1924, の訳）
岡　康哉「個人の国際法上の地位に就て」法叢二三巻六号
尾高朝雄「法律学における理論と実践」法協四八巻八号（→五七・尾高収）
堀　真琴・国家論・千倉書房
美濃部達吉「ケルゼン教授の国法及国際法理論の批評」国家四四巻八号九号一〇号（→三五・美濃部・批判収）
矢部貞治「代議政の危機に関する近年若干の論議」国家四四巻九号一〇号

佐々木惣一・日本憲法要論
末川　博・権利侵害論
奈良正路・法律学の根本問題
美濃部達吉・現代憲政評論
美濃部達吉・議会制度論
我妻　栄・民法総則
現代政治学全集（日本評論社）刊行開始

一九三一（昭六）年

（フェアドロス・他）大沢　章・野見山　温訳・国際法の基本問題・岩波書店（筆者未見）
ライブホルツ・木村亀二訳「ドイツに於ける国法学の近況」法

学志林三三巻八号（G. LEIBHOLZ „Die Lage der deutschen Staatsrechtslehre der Gegenwart,“ の訳）

天川信雄「アドルフ・メルクル『一般行政法学』に於ける法段階説」早政二四号

大沢　章・国際法秩序論・岩波書店

大沢　章「国際法理論」法時三巻一〇号（→三二・大沢他収）

岡　康哉「国際法秩序の継続性及び同一性と革命」国際三〇巻六号

岡　康哉「国際法上の国家承認と未承認国家の法上の地位」法叢二六巻一号

Tomoo OTAKA „Künftige Aufgabe der Reinen Rechtslehre,“ in, Gesellschaft, Staat und Recht, Festschrift für H. KELSEN, Wien

清宮四郎「公法理論」法時三巻一〇号（→三二・大沢他収）、（→六八・清宮収）

清宮四郎「法の定立・適用・執行」京城大学法政論纂（→六八・清宮収）

黒田　覚「多元的国家論とウイン法学」法叢二五巻一号三号四号

黒田　覚「国家理論」法時三巻一〇号（→三二・大沢他収）

木村亀二「ケルゼンの自然法否定の理論」国家四五巻五号（→四一・木村収）

鈴木義男「現代法律哲学問題」哲学講座第九巻・誠文堂

田村徳治「法律は如何なる種類の存在か」法叢二五巻五号六号二六巻一号三号四号（三〇・三一・美濃部・横田論争への批評）

俵　静夫「ケルゼンの方法の純粋性」国民経済雑誌五一巻二号三号（W. JÖCKEL, H. KELSENs rechtstheoretische Methode, 1930, の紹介）

中村弥三次・規範的行政法学序論・敬文堂

西島芳二「ケルゼンの民主主義の本質及び価値について」社会及国家一八三号

美濃部達吉「法律は当為なりや存在なりや」国家四五巻三号四号（三一・横田「当為と存在」への反論）（→三五・美濃部・批判収）

安井　郁「国際法優位論の現代的意義」国際三〇巻七号九号（→七〇・安井収）

山内次雄「主権の問題—特に H. Kelsen と A. Verdroß」法

文論叢四巻二号
矢部貞治「現代ドイツにおける衆民政諸論」国家四五巻一〇号一二号四六巻二号（→四九・矢部収）
横田喜三郎「法律における当為と存在」国家四五巻二号三号（三〇・美濃部への反論）、（→七六・横田収）
横田喜三郎「法律の妥当性」国家四五巻九号一〇号一一号（三一・美濃部への反論）、（→七六・横田収）
横田喜三郎「一般法律理論」法時三巻一〇号（→三二・大沢他収）（→七六・横田収）
横田喜三郎「国際犯罪としての戦争」法学志林三三巻五号六号
Kisaburo YOKOTA „Begriff und Gliederung der Verfassung der Völkerrechtsgemeinschaft," in, Gesellschaft, Staat und Recht, Festschrift für H. KELSEN, Wien（→七七・横田収）
佐藤丑次郎・帝国憲法講義
滝川政次郎・律令の研究
奈良正路・法律学の基礎観念
穂積陳重・復讐と法律
一九三二（昭七）年
K・黒田　覚訳・自然法と法実證主義・大畑書店（→七四・黒田・長尾訳収）（Die Philosophische Grundlegung der Naturrechtslehre und des Rechtspositivismus, 1928, の訳）
K・西島芳二訳・民主政治と独裁政治・岩波書店（Vom Wesen und Wert der Demokratie, 2Aufl., 1929, の訳。矢部貞治の「序文」を含む。）
大沢　章・清宮四郎・黒田覚・矢部貞治・横田喜三郎・ケルゼンの純粋法学　並、その国家・政治理論・大畑書店
大沢　章「国際法に於ける国家の独立と承継」国際三一巻六号七号八号九号
Tomoo OTAKA, Grundlegung der Lehre vom sozialen Verband, Wien, Verlag von Jurius Springer.
黒田　覚「ウィーン学派の社会学」法叢二八巻一号
黒田　覚「K・フックス・規範的国家論と国家社会学―ウィーン学派の社会学㈠」法叢二八巻二号
黒田　覚「尾高朝雄・社会団体理論の基礎づけ―ウィーン学派の社会学㈡」法叢二八巻四号

木村亀二「ウイン学派と法律の解釈及適用」法学志林三四巻四号

中野登美雄・法律綱要（公法）・雄風館書房

牧野英一「法律的消極主義」法学志林三四巻一号二号五号

美濃部達吉「国際法と国内法との区別及び関係」法協五〇巻四号五号六号（→三五・美濃部・批判収）

宮沢俊義「公法学における政治」法協五〇巻七号（→六八・宮沢・学説収）

安井　郁「国家承認論」国際三一巻一号二号三号

横田喜三郎「法律的積極主義」国家四六巻七号八号（三二・牧野への反論）（→七六・横田収）

小野清一郎・刑法講義

田中耕太郎・世界法の理論（一三巻・三四年）

野村淳治・憲法提要

日本資本主義発達史講座刊行（一七巻・三三年）

一九三三（昭八）年

浅井　清・日本憲法講話・春秋社

潮田江次「ケルゼンと国家及政治」法研一二巻三号（→四四・政治の概念収）

黒田　覚「議会主義の社会的限界」京都大学訣別論文集

木村亀二「国家形態と世界観」国家四七巻二号

牧野英一「純粋法律理論と刑法二三五条」法学志林三五巻一号

牧野英一「純粋法学の積極的意義」法学志林三五巻二号（三二・横田への反論）

三戸　寿「ケルゼン・唯物史観より見たる法の一般理論・紹介」法学二巻一二号

宮沢俊義「法の義務づけやう」法学協会五〇周年記念論文集第一部（→六八・宮沢・学説収）

森口繁治・憲法学原理第一分冊・弘文堂

安井　郁「国際法体系の理論的構成」法協五一巻六号

横田喜三郎・国際法(上)(下)・有斐閣

横田喜三郎「裁判と法律」法学協会五〇周年記念論文集第一部（→七七・横田収）

横田喜三郎「国際法と国内法との論理的関係」山田三良先生還暦祝賀論文集（三二・美濃部への反論）

横田喜三郎「純粋法学と唯物史観法律論」国家四七巻五号（→

七六・横田収）

鈴木安蔵・憲法の歴史的研究
中島　重・社会哲学的法理学
穂積重遠・親族法
美濃部達吉・公法判例体系
山崎又次郎・憲法学

一九三四（昭九）年

五十嵐豊作「現代国家論の諸傾向」国家四八巻二号三号
尾高朝雄・法哲学・日本評論社
尾高朝雄「国家における法と政治」京城帝大法学会論集七冊
川上敬逸「国際法法源論—法の一般原則論」法政四巻一号（A. VERDROSS の紹介）
清宮四郎「違法の後法」美濃部達吉先生還暦記念第二巻（→六八・清宮収）
清宮四郎「国家における立法行為の限界」京城帝大法学会論集七冊（→六八・清宮収）
木村亀二「ケルゼンの法律解釈論」法学志林三六巻七号
黒田　覚「一般国家論の諸性格」法叢三一巻三号
田中耕太郎「ケルゼンの純粋法学の法律哲学的意義及びその価値」筧克彦教授還暦記念（→六〇・田中収）
田中　晃「法と法認識との関係」国家四八巻五号六号
中村弥三次・行政法提要総論・巌松堂
宮沢俊義「国民代表の概念」美濃部達吉先生還暦記念第一巻（→六七・宮沢・原理収）
宮沢俊義「独裁制理論の民主的扮装」中央公論四九巻二号（→六七・宮沢・思想収）
宮沢俊義「民主制と相対主義哲学」外交時報七二巻二号（→六七・宮沢・思想収）
安井　郁「純粋法学における根本規範の概念の分析と批判」国家四八巻二号（G. A. WALZ の研究）
安井　郁「国際法と国内法との関係の再検討」国家四八巻八号九号一〇号四九巻二号（G. A. WALZ の研究）
横田喜三郎「純粋法学」岩波法律学辞典二巻（→七六・横田収）
横田喜三郎「法律の解釈」国家四八巻一二号四九巻一号二号（→七六・横田収）

里見岸雄・帝国憲法の国体学的研究
杉村章三郎・我妻栄・木村亀二・後藤清・ナチスの法律
鈴木安蔵・日本憲法学の生誕と発展
田中耕太郎・法律哲学概論
中野登美雄・統帥権の独立
橋本文雄・市民法と社会法
平野義太郎・日本資本主義社会の機構
三谷隆正・法律哲学原理
美濃部達吉・日本憲法の基本主義
山田盛太郎・日本資本主義分析
岩波法律学辞典刊行（―五巻・三七年）

一九三五年（昭一〇）年

K・横田喜三郎訳・純粋法学・岩波書店（Reine Rechtslehre, 1934, Wien, の訳）

K・蠟山芳郎・武井武夫訳・国法学の主要問題（上）（中）（下の一）・春秋社世界大思想全集一〇六巻一〇七巻一〇八巻（Hauptprobleme, 2Aufl, の第二篇第一六章までの部分訳）

今中次磨「新カント主義政治学の危機」法政六巻一号
大淵仁右衛門「ケルゼンの平和機構論を読む」法と経済二巻四号
大淵仁右衛門「国際法に於ける国家承認問題の一考察」公法雑誌一巻一号
田畑茂二郎「ラカムブラ・純粋法学と社会法の理念」法叢三三巻四号
中村弥三次・憲法・行政法・非凡閣
美濃部達吉・法の本質・日本評論社
美濃部達吉・ケルゼン学説の批判・日本評論社
横田喜三郎「法律学と政治との統合」経済往来六月号
横田喜三郎「ケルゼン・司法手続と国際秩序・紹介」国際三四巻七号
岩崎卯一・日本憲法学論の現実科学的把握
今中次磨・独裁政治論
佐治謙譲・国家法人説の崩壊
清水幾太郎・社会と個人（上）
鈴木安蔵・日本憲法史研究

牧　健二・日本封建制度成立史
美濃部達吉・公法と私法
唯物論全書刊行（―五〇冊・三七年）
公法雑誌創刊

一九三六（昭一一）年

K・清宮四郎訳・一般国家学・岩波書店（Allgemeine Staatslehre, 1925, の訳）
大淵仁右衛門「ケルゼン・国際法の国内法への変型」公法雑誌二巻一一号
大淵仁右衛門「Verdroß, Der Grundsatz 'pacta sunt servanda'」法と経済五巻五号
尾高朝雄・国家構造論・岩波書店
尾高朝雄「事実の規範力」国家五〇巻九号（→四二・尾高収）
菰淵鎮雄「市民的法学的国家理論の破綻」法学志林三八巻七号
須貝脩一「『法秩序の統一性』と法段階説」法叢三四巻五号
須貝脩一「メルクルの法段階説」法叢三五巻三号
田畑茂二郎「ケルゼン・国際法の国内法への変型」法叢三五巻五号
中野登美雄「憲法学的認識の本質」早政四五号
宮沢俊義・転回期の政治・中央公論社
宮沢俊義「法律学における学説」法協五四巻一号（→六七・宮沢・学説収）
宮沢俊義「わが国の法哲学」法時八巻一一号

大河内一男・独逸社会政策思想史
筧　克彦・大日本帝国憲法の根本義
鈴木安蔵・比較憲法史
恒藤　恭・法の基本問題
恒藤　恭・法的人格者の理論
美濃部達吉・日本行政法(上)(下)
蠟山政道・行政学原論第一分冊

一九三七（昭一二）年

K・田畑忍訳「国家形態と世界観」同志社論叢五四号五五号（Staatsform und Weltanschauung, 1933, の訳）
一又正雄「国際法の国内的効力に関する論争について―所謂転型学説に対するケルゼンの純粋法学的批判を中心にして―」

早法一六号
尾高朝雄「現象学的実在論の立場と国家構造論」国家五一巻五号（三七・南原への反論）
黒田　覚・日本憲法論(上)・弘文堂
中村宗雄「ケルゼン教授の面影」早稲田大学新聞二月一日号（→七六・中村先生追悼・茶涯学人・敬文堂収）
中村弥三次・憲法学提要・巌松堂
南原　繁「現象学的国家論の問題」国家五一巻四号（三六・尾高・国家構造論への批判）
栗生武夫・法の変動
風早八十二・日本社会政策史
文部省・国体の本義
家族制度全集刊行（一一〇巻・三八年）

一九三八（昭一三）年
大淵仁右衛門「フェアドロッス・法の一般原則・紹介」法と経済一〇巻二号
尾高朝雄「法の妥当性と実効性」牧野英一先生還暦記念（→四二・尾高収）
清宮四郎「憲法改正作用」野村淳治先生還暦記念（→六八・清宮収）
佐治謙譲・日本学としての日本国家学・第一書房
中野登美雄・憲法講義（その一）・早稲田大学出版部
宮沢俊義「法および法学と政治」牧野英一先生還暦記念（→六七・宮沢・原理収）
安井　郁「ケルゼンの国際法優位理論の検討」法協五六巻七号
横田喜三郎「法と強制」牧野英一先生還暦記念（→七六・横田収）
大塚久雄・株式会社発生史論
里見岸雄・国体法の研究
末弘厳太郎・法学入門

一九三九（昭一四）年
臘谷峻嶺「ケルゼン・政党独裁」法叢四〇巻二号
原田　鋼・法治国家論・有斐閣
横田喜三郎「国際法の法的性質」国家五三巻四号五号

大石義雄・国民投票制度の研究
田畑　忍・法と政治
新独逸国家大系刊行（一二巻・四一年）

一九四〇（昭一五）年

尾高朝雄「法の立体的構造」公法雑誌六巻四号五号六号（→四二・尾高収）
中村弥三次「原始憲法の概念について」早法一九巻
鈴木安蔵・帝国議会の歴史と本質
中野登美雄・戦時の政治と公法
広浜嘉雄・法理学
柳瀬良幹・行政法の基礎理論(一)

一九四一（昭一六）年

ヴァス・佐藤立夫訳・先験的法哲学・雄風館書房（T. VAS, Die Bedeutung der transzendentalen Logik in der Rechtsphilosophie, 1935, の訳）
大串兎代夫・国家権威の研究・高陽書院
大串兎代夫・現代国家学説・文理書院
尾高朝雄「法の効力」京城大法学会論集一二巻一号（→四二・尾高収）
木村亀二・法と民族・日本評論社
前原光雄「根本規範としてのパクタ・ズント・セルヴァンダ」国際四〇巻八号（A.VERDROSS の紹介）
大石義雄・ナチス・ドイツ憲法論
大石義雄・帝国憲法と国防国家の理論
大熊信行・国家科学への道
企画院・国防国家の綱領
黒田　覚・国防国家の理論
佐々木英夫・刑事倫理学の研究
高島善哉・経済社会学の基本問題
中島　重・国家原論
横田喜三郎・国際裁判の本質
日本国家科学大系刊行（一一〇巻・四四年）

一九四二（昭一七）年

大串兎代夫・国家学研究・朝倉書店
尾高朝雄・実定法秩序論・岩波書店
加藤新平「法の妥当根拠と法のイデー」法叢四六巻四号五号六号四七巻六号
清宮四郎「法の法としての憲法」法学一一巻一二号（→六九・清宮収）
中村弥三次・日本憲法体系・巌松堂
小野清一郎・日本法理の自覚的展開
鈴木安蔵・憲法制定とロエスレル
南原　繁・国家と宗教
平野義太郎・清野謙次・太平洋の民族政治学
仁井田陞・支邪身分法史

一九四三（昭一八）年

K・下村寅太郎抄訳「応報原理よりの因果律の成立」哲学論叢九巻（„Die Entstehung des Kausalgesetzes aus dem Vergeltungsprinzip,“ The Journal of Unified Science, vol. 8, 1939, の抄訳）
尾高朝雄「法における政治の契機」法時一五巻一〇号
清宮四郎「憲法の時間的通用範域」国家五七巻四号（→六九・清宮収）
佐藤　功「ドイツにおける憲法裁判制度とその理論」国家五七巻三号四号五号六号七号八号
中村　哲「憲法制定権について」国家五七巻六号七号
大谷美隆・法律哲学
戒能通孝・法律社会学の諸問題
戒能通孝・入会の研究
佐々木惣一・我が国憲法の独自性
穂積八束博士論文集
和田小次郎・法哲学(上)
渡辺宗太郎・ナチス行政法の理論

一九四四（昭一九）年

大西芳雄・国家と法律学・秋田屋
清宮四郎「憲法の憲法(一)」法学一三巻六号（→六九・清宮収）

大塚久雄・近代欧州経済史序説
周藤吉之・中国土地制度史研究

一九四五（昭二〇）年

一九四六（昭二一）年

パシュカーニス・佐藤栄訳・マルクス主義と法理学・彰考書院（E. PASCHUKANIS, Allgemeine Rechtslehre und Marxismus, 1929, の訳）

一九四七（昭二二）年

鵜飼信成「主権概念の歴史的考察と我が国最近の主権論」憲法研究会編・新憲法と主権・永美書房
尾高朝雄・法の窮極にあるもの・有斐閣
原田　鋼・主権概念を中心としてみたる政治学説史・有斐閣

一九四八（昭二三）年

尾高朝雄・国民主権と天皇制・国立書院
尾高朝雄・数の政治と理の政治・東海書房
加古祐二郎・理論法学の諸問題・日本科学社
宮沢俊義・民主制の本質的性格・勁草書房

一九四九（昭二四）年

K・鵜飼信成訳「デモクラシーの苦悶」潮流四巻七号（„Absolutismus und Relativismus im Philosophie und Politik,‘ The American Political Science Review, vol. 42, 1948, の訳）
碧海純一「ケルゼン・法と国家の一般理論・紹介」法哲学四季報三号
尾高朝雄・法の窮極にあるものについての再論・勁草書房
尾高朝雄・法哲学概論・学生社
木村亀二・法哲学―人と思想・角川書店
深瀬　秀「ケルゼン・法による平和・紹介」法と政治一巻一・二号
矢部貞治・民主主義の本質と価値・弘文堂

一九五〇（昭二五）年

K・矢部貞治訳・ボルシェヴィズムの政治学的批判・労働文化

社（Die politische Theolrie des Bolschewismus, 1948, の訳）
鵜飼信成・行政法の歴史的展開・有斐閣
鵜飼信成「ケルゼン」法律思想家評伝・日本評論社
千葉正士・法学の対象・文京書院
寺沢　一「ケルゼン・法を通しての平和・紹介」国家六四巻二・三号
峯村光郎・法哲学・日本評論社

一九五一（昭二六）年

岩崎卯一「国際社会主権論」法学論集一巻一号
寺沢　一「ケルゼン・社会と自然」国家六四巻七・八・九号
橋本公亘「ハンス・ケルゼン教授に会う」自由と正義二巻一二号
原田　鋼・法学的国家論・小峰書店
松下正寿「ケルゼン・ベルリン宣言によるドイツの法的地位」法律新報七三四号
沼田稲次郎・法と国家の死滅・法律文化社
宮沢俊義「民主制の世界観」世界六四号
村西義一「ケルゼン・科学と政治・紹介」法と政治三巻四号
八木鉄男「新カント派・特にラスク及びケルゼンと自然法論」同法七号八号

一九五二（昭二七）年

K・鵜飼信成訳・法と国家・東京大学出版会（Law and Peace in International Relation, 1942, の訳）
尾高朝雄・自由論・勁草書房
松尾敬一「正義の内容なき定式とその機能」国民経済雑誌一〇〇巻五号
皆川　洸「ケルゼン・国際連合法における最近の傾向」一橋論叢二八巻五号
八木鉄男『抵抗の理論』としての純粋法学」藤井先生還暦記念
――「ケルゼン・法と国家」世紀四〇号（筆者未見）
――「ケルゼン・国際連合の法―その実証主義的分析」世界週報三三巻一二号（筆者未見）

一九五三（昭二八）年

ハロウェル・石上良平訳・イデオロギーとしての自由主義の没

落・創元社（J. H. HALLOWELL, The Decline of Liberalism as an Ideology, 1943, の訳）
原田鋼・主権論—その展開とイデオロギー性—・小峰書店（四七・原田とほとんど同文）
中村　洸「ケルゼン・国際法原理・書評」法研二六巻一一号
八木鉄男「純粋法学と法社会学」同法一七号

一九五四（昭二九）年

K・„The Natural Law Doctrine before the Tribunal of Science,“ 田中耕太郎先生還暦記念
鵜飼信成・現代アメリカ法学・日本評論社
小林孝輔「憲法の本質」鈴木安蔵編・憲法学の課題・日本評論社
中村　洸「ハンス・ケルゼン—人とその思想」三色旗一一月号（筆者未見）
八木鉄男「法哲学における相対主義」同法一一号

一九五五（昭三〇）年

手島　孝「ケルゼンの行政論」法政二三巻一号（→八一・手島・ケルゼニズム考収）
宮沢俊義・神々の復活・読売新聞社

一九五六（昭三一）年

菅野喜八郎「近代ドイツ国法学における主権論の展開」新潟大法経論集四巻一号五巻一号六巻一号

一九五七（昭三二）年

K・服部栄三・高橋悠訳・マルクス主義法理論・ミネルヴァ書房（The Communist Theory of Law, 1955, の訳）（→七四・K選集第二巻収）
碧海純一「純粋法学」尾高・加藤・峯村編・法哲学講座第四巻・有斐閣
尾高朝雄・法律の社会的構造・勁草書房
木田純一「ケルゼンのヴィシンスキー法理論批判について」愛知大法経論集二一・二二号
小林孝輔・憲法学の本質・森北出版
小林直樹「法の存在構造—法における権力と価値—」思想四〇二号

中村弥三次「法における正義の展開」上智法学論集一巻一号
宮沢俊義・国民主権と天皇制・勁草書房
宮沢俊義「憲法の正当性ということ」ジュリ一二一号（→六七・宮沢・原理収）
矢崎光圀「ケルゼン」法思想史上の人々・日本評論社
横田喜三郎・純粋法学・勁草書房

一九五八（昭三三）年

K・小林孝輔訳「議会主義の問題」青山経済論集九巻四号（„Das Problem des Parlamentarismus,“ Soziologie und Sozialphilosophie, 1925, の訳）
パシュカーニス・稲子恒夫訳・法の一般理論とマルクス主義・日本評論社（Е. Б. Пашуканис, Общая теория права и марксизм, 1924, の訳）
小林直樹「憲法における『政治的なるもの』」ジュリ一五二号（→六一・小林・原理収）
小林直樹「憲法における『規範的なるもの』」ジュリ一五三号（→六一・小林・原理収）
太寿堂鼎「ケルゼン国際法学に関する若干の研究」季刊法律学二〇号
原田　鋼・法哲学の基本問題・青林書院
宮沢俊義「世界観と政治観との相関関係」国家七一巻六号（→六八・宮沢・学説収）

一九五九（昭三四）年

K・古市恵太郎訳・民主政治の真偽を分つもの・理想社（„Foundation of Democracy,“ Ethics, vol. 66, 1955, の訳）
碧海純一、法哲学概論・弘文堂
阿南成一「ケルゼン・純粋法学（古典ダイジェスト）」法セ四二号
岩崎卯一・現代国家学説・（自家出版）
鵜飼信成「ウィーン学派」講座日本近代法発達史第七巻・勁草書房
西村克彦「ケルゼン・正義とは何か」法律のひろば一一巻四号
松尾敬一「ケルゼン・正義論集・一九五七」神戸法学八巻四号
峯村光郎・法の実定性と正当性・有斐閣

一九六〇（昭三五）年

岩崎卯一・近世主権学説の研究・（自家出版）
池田政章「ドイツ型憲法裁判の系譜と特質」国家七三巻六号
小林直樹・法理学(上)・岩波書店
加藤新平「新カント学派」尾高・加藤・峯村編・法哲学講座第五巻上・有斐閣
鈴木安蔵・国法学―憲法学の基礎理論・勁草書房

一九六一（昭三六）年

尾吹善人「憲法理論の基本問題」法時三三巻六号（六一・小林・原理の批判）
小林直樹・憲法の構成原理・岩波書店
小林直樹「『憲法理論の基本問題』」法時三三巻八号（六一・尾吹への反批判）
水波　朗「国法学の形式的対象―ドイツ公法学派の終焉―」法政二七巻二・三・四号
山口五郎「国家承認に関するケルゼンの創設的効果説」新潟大法経論集九巻三号四号
矢部貞治「ドイツ国家学の展開と帰結」南原繁先生還暦記念・政治思想における西欧と日本(上)・東大出版会

一九六二（昭三七）年

尾吹善人「憲法理論の基本問題」東北法学会雑誌一一号（六一・小林「基本問題」への再反論）
加藤新平「価値相対主義」恒藤恭先生古稀記念・有斐閣
小林孝輔「ドイツ国家学の現況とその問題点」年報政治学一九六二
宮沢俊義「神々の共存」世界一九八号

一九六三（昭三八）年

尾高朝雄先生追悼論文集・自由の法理・有斐閣
菅野喜八郎「根本規範論考」新潟大法経論集一一巻一号（六一・小林・原理への批判）
松尾敬一・法理論と社会の変遷・有斐閣

一九六四（昭三九）年

碧海純一「社会科学における認識の客観性についての一試論」法協八一巻一号八二巻一号四号八三巻一号（→七三・碧海収）
内藤嘉男「ワイマル民主主義思想の特質」法学新報七一巻一〇

号

木暮正義「ワイマール・デモクラシー史の一側面」法学新報七一巻一一号

佐藤立夫「法哲学者としてのハンス・ケルゼン」早政一八九号（→六八・佐藤収）

深瀬忠一「G・エロー教授の法理論の特質―フランスにおけるケルゼニズムの批判的摂取と超克例」北大法学会論集一四巻二号

宮沢俊義「学説というもの」ジュリ三〇〇号（→六八・宮沢・学説収）

一九六五（昭四〇）年

K・新城利彦訳「正義とは何か?」琉大法学六号（What is Justice? 1952, の訳）

K・宮崎繁樹訳「正義とは何か」法律論叢三九巻一・二・三号（Was ist Gerechtigkeit, 1953, の訳）（→七五・K選集三巻収）

碧海純一「哲学における神話と認識」科学時代の哲学第一巻・培風館（→七三・碧海収）

井上　茂「憲法の最高法規性」宮沢俊義先生還暦記念第二巻・有斐閣（→七二・井上・法哲学研究第二巻・有斐閣収）

千葉正士「戦前におけるわが国法哲学の思想史的再検討」法学新報七二巻一・二・三号五号

樋口陽一「憲法の政治学的考察について」法学二九巻一号二号三号（→七三・樋口収）

樋口陽一「『憲法変遷』の観念」思想四八四号

長尾龍一「法理論における真理と価値」国家七八巻一・二号五・六号七・八号九・一〇号一一・一二号

松尾敬一「尾高法哲学の形成」神戸法学一四巻四号一五巻一号二号

一九六六（昭四一）年

トーピッチュ・長尾龍一訳「イデオロギー批判家としてのケルゼン」国家七九巻九・一〇号（E. TOPITSCH „Einleitung," in, H. KELSEN, Aufsätze zur Ideologiekritik, 1964, の訳）（→七一・K・長尾訳）、（→七七・K選集七巻収）

井上　茂編・現代法の思想・岩波書店

菅野喜八郎「純粋法学と憲法改正限界論」新潟大法経論集一四

巻四号（→七八・菅野・限界問題収）
長尾龍一「イデオロギー的思惟の源泉と構造」思想五〇六号
長尾龍一「法秩序安定のイデオロギー的基礎」川島武宜編・経験法学の研究・岩波書店
長尾龍一「マルクス主義国家論ノート」東大教養学部比較文化研究六輯
原　秀男「価値相対主義哲学とその思想的系譜」法研三九巻二号（→六八・原収）

一九六七（昭四二）年

大橋智之輔「ケルゼン」矢崎光圀編・現代法思想の潮流・法律文化社
佐藤立夫「新カント学派の法哲学」社会科学討究一二巻二号
長尾龍一「正義論と世界観」法哲一九六六（→八一・長尾・斜断収）
藤田宙靖「公権力の行使と私的権利主張」国家八〇巻三・四号五・六号七・八号九・一〇号一一・一二号（→七八・藤田・公権力収）
水波　朗「ダバンとケルゼン」自然法の研究一号二号（→七一・水波収）
宮沢俊義・公法の原理・有斐閣
宮沢俊義・憲法の原理・岩波書店
宮沢俊義・憲法の思想・岩波書店
宮沢俊義・憲法と裁判・有斐閣
柳瀬良幹「ケルゼンの機関論」法学三一巻三号（→七〇・柳瀬収）
横田喜三郎「ケルゼン・主権と国際法―わたくしの古典―」エコノミスト四五巻五号（→七七・横田収）

一九六八（昭四三）年

K・久保木康晴訳・ケルゼンの法学・銀行研究社（General Theory of Law and State, 1945, の第一部の訳）
井上　茂・法規範の分析・岩波書店
菅野喜八郎「義務の衝突」社会科学の方法四号（→七八・菅野・限界問題収）
清宮四郎・国家作用の理論・有斐閣
佐藤立夫・公法における理念と機能・早稲田大学出版部
長尾龍一「自然と作為」社会科学の方法六号

原　秀男・価値相対主義法哲学の研究・勁草書房
原　秀男「ノイ・カンテイヤーナ宮沢俊義」立正法学二巻四号
宮沢俊義・法律学における学説・有斐閣
宮沢俊義・憲法と政治制度・岩波書店
宮沢俊義・日本憲政史の研究・岩波書店
八木鉄男・法哲学史・世界思想社
横田喜三郎「純粋法学と法律解釈」法哲一九六七（→七七・横田収）
――「学説一〇〇年史」ジュリ四〇〇号

一九六九（昭四四年）

オリィヴェクローナ・碧海純一・太田知行・佐藤節子訳・事実としての法・勁草書房（K. OLIVECRONA, Law as Fact, 1939, の訳）
菅野喜八郎「抵抗権論についての若干の考察」新潟大法経論集一七巻三・四号（→七八・菅野・限界問題収）
菅野喜八郎「憲法改正規定の改正―法段階説についての一考察―」法学三三巻一号（→七八・菅野・限界問題収）
清宮四郎・憲法の理論・有斐閣
小林直樹「憲法の正当性について」国家七二巻一一・一二号
佐藤立夫「ケルゼンの純粋法学」早政二一六号（→七三・佐藤収）
高根義三郎「ケルゼンとラウン」亜細亜法学四巻一号
長尾龍一「ケルゼン」社会科学大事典第六巻・鹿島研究所
長尾龍一「純粋法学」社会科学大事典第一〇巻・鹿島研究所
長尾龍一「神々の闘争と共存―価値相対主義の一考察―」東大教養学部社会科学紀要一八輯
新里光代「正義の一考察」人文論究二九号（筆者未見）
原　秀男「宮沢俊義研究ノート」立正法学三巻二号
藤田宙靖「柳瀬教授の行政法学」法学三三巻一号四号

一九七〇（昭四五）年

碧海純一「エルンスト・トーピッチュの業績」社会思想研究二二巻一・二・三号（→七三・碧海収）
碧海純一「科学的組織と価値判断との関係についての覚え書き」国家八三巻一・二号
青山武憲「憲法制定権力に関する規範主義の分類」日大政経研究七巻三号

井上　茂・矢崎光圀編・法哲学講義・青林書院
長尾龍一「二つの憲法と宮沢憲法学」創文七九号（→八一・長尾・法思想史研究収）
広瀬和子・紛争と法・勁草書房
広瀬和子「経済社会学と法社会学の双対性について」国家八三巻五・六号
松尾敬一「大正・昭和初期の法理論をめぐる若干の考察」法哲一九六九
安井　郁・国際法学と弁証法・法政大学出版部
柳瀬良幹・元首と機関・有斐閣
山下威士「イデオロギー概念としての憲法制定権力」早稲田法学会誌二〇号

一九七一（昭四六）年

K・長尾龍一訳・神と国家・有斐閣（Aufsätze zur Ideologiekritik, 1964, の部分訳）
メタル・井口大介・原秀男訳・ハンス・ケルゼン・成文堂（R. A. MÉTALL, Hans KELSEN, Leben und Werk, 1969, の第一部の訳）
ヘラー・安世舟訳・国家学・未来社（H. HELLER, Staatslehre, 1934, の訳）
新　正幸「ケルゼンに於ける Rechtssatz の概念の変遷」福島大商学論集四〇巻一号二号
青山武憲「ケルゼンとその国家本質論」日大法学紀要一三号
井上　茂「純粋法学の『純粋性』」峯村光郎先生還暦記念（→七一・井上・法哲学研究第一巻・有斐閣収）
小林直樹「日本におけるドイツ公法学の特質」概観ドイツ法・東大出版会
樋口陽一「『憲法の規範性』ということ」法学三五巻一号（→七三・樋口収）
水波　朗・法の観念・成文堂
ホセ・ヨンパルト・金沢文雄・法哲学・成文堂
山下威士「我国における純粋法学の受容とその問題性」埼玉大紀要社会科学篇一八巻

一九七二（昭四七）年

K・青山武憲訳「一般国家学提要」日本法学三八巻一号二号（Grundriß einer allgemeinen Theorie des Staates, 1926,

の訳）
シュミット・尾吹善人訳・憲法理論・創文社（C. SCHMITT, Verfassungslehre, 1928, の訳）
石井紫郎編・日本近代法史講義・青林書院
那須清重「ケルゼンの『根本現範』とフラーの『法と道徳』との関係」明治大大学院紀要法学篇九巻一号
原　秀男「自然法論議の一考察―ケルゼンとフェルドロース―」自然法の研究五号

一九七三（昭四八）年

オリィヴェクローナ・安部浜男訳・法秩序の構造・成文堂（K. OLIVECRONA, Law as Fact, 2ed, 1971, の訳）
碧海純一・合理主義の復権・木鐸社
碧海純一・法哲学概論・全訂版・弘文堂
新　正幸「政治神学について」福島大商学論集四二巻一号四三巻二号
井上　茂・法秩序の構造・岩波書店
稲田陽一「純粋法学とイデオロギー批判」岡山大法学会雑誌二二巻一号
鵜飼信成「ケルゼン―人と業績―」ジュリ五四〇号
佐藤立夫・現代の国家と憲法論攷・早稲田大学出版部
田中茂樹「法の解釈における『客観性』とケルゼンの『わく』の理論」神戸大教育学部研究集録五〇集
手島　孝「ケルゼニズム考・断章」法政三九巻二・三・四号（→八一・手島・ケルゼニズム考収）
長尾龍一「ハンス・ケルゼンとカール・シュミット」社会科学の方法六巻一〇号（→八〇・長尾・周辺収）
那須清重「ケルゼンとアメリカ法」明治大大学院紀要法学篇一巻一号
原　秀男「『学説二分論』の実践的意義」社会科学の方法六巻五号
樋口陽一・近代立憲主義と現代国家・勁草書房
堀内健志「国家諸機能・法規・法律・命令・法律の留保」盛岡短大研究報告二三号
矢崎光圀・法哲学と法社会学・日本評論社

一九七四（昭四九）年

K・黒田覚・長尾龍一訳・自然法論と法実証主義・選集第一巻

・木鐸社
K・服部栄三・高橋悠訳・マルクス主義法理論の考察・選集第二巻・木鐸社
K・原　秀男・西沢宗英訳「法律学における価値判断」立正法学七巻一・二・三・四号（„Value Judgementes in the Science of Law,“ in, Journal of Science, Philosophy and Jurisprudence, 1942,〔in, What is Justice? 1957,〕の訳）
K・原秀男訳「哲学と政治学における絶対主義と相対主義」伊東乾編・原典による学術史・法学・慶応大学出版部（„Absolutism and Relativism in Philosophy and Politics,“ in, American Political Science Review, 1948,〔in, What is Justice ? 1957,〕の訳）
シュミット・阿部照哉・村上義弘訳・憲法論・みすず（C. SCHMITT, Verfassungslehre, 1928, の訳）
シュミット・田中浩・原田武雄訳・大統領の独裁・〔付〕憲法の番人（一九二九年版）・未来社（C. SCHMITT „Der Hüter der Verfassung,“ in, AöR. Bd. 16, 1929, の訳文を含む）
碧海純一「ハンス・ケルゼン教授を悼む」法協九一巻三号
新　正幸「ケルゼン」法セ二三五号別冊「法学者――人と作品――」
伊地知大介「相対主義と二つの法哲学」大東法学創刊号
鵜飼信成・長尾龍一編・ハンス・ケルゼン・東大出版会
加藤新平「社会科学方法論史断片」法叢九五巻三号（一七五・加藤収）
兼子義人「ケルゼン純粋法学の批判」法時四六巻一二号
清宮四郎「ハンス・ケルゼン教授の逝去を悼む」公法研究三五号
中村晃紀「規範概念の構成要素」早稲田法学会誌二四号
中村雄二郎「法の存在論的構造と実定法」法哲一九七三
西浦　公「ヴァイマル期憲法学の憲法概念」法学雑誌二一巻一号
古野豊秋「根本規範の本質」中央大大学院研究年報三号
山下威士「ハンス・ケルゼンのイデオロギー批判」社会科学の方法七巻九号

一九七五（昭五〇）年
K・長尾龍一・宮崎繁樹・上原行雄・森田寛二訳・正義とは何か・選集第三巻・木鐸社

K・長尾龍一訳・ヤハウェとゼウスの正義・選集第四巻・木鐸社

フエヒナー・原秀男・栗田陸雄訳「イデオロギーと法実証主義」立正法学八巻一・二号（E. FECHNER „Ideologie und Rechtspositivismus," in, W. MAIHOFER (Hrsg.), Ideologie und Recht, 1969, の訳）

トウマーノフ・現代ブルジョワ法思想—基本的諸学説のマルクス主義的評価—・プログレス（ソヴェット連邦）（B.A. Туманов, Современная Буржуазная правовая мысль. Марксистская оценка основных концепций, 1973, の訳）

碧海純一編・法学における理論と実践・学陽書房

井口大介「ハンス・ケルゼンの邦訳書誌について」日本出版学会々報二二号

伊地知大介「純粋法学と概念法学」大東法学二号

大橋智之輔「法規範の実効性について」法学志林七二巻三・四号

加藤新平・法哲学概論・有斐閣

樋口陽一「『憲法慣習』の概念についての再論」法時四七巻七号八号九号

森田寛二「ケルゼン『純粋法学』とシュミット『憲法論』の一断面」社会科学の方法八巻二号（七四・山下の批判）

宮沢俊義「憲法の科学と実践」ジュリ五七六号

矢崎光圀・法哲学・筑摩書房

ホセ・ヨンパルト・法哲学入門・成文堂

善家幸敏・法の根本問題・成文堂

一九七六（昭五一）年

K・長尾龍一訳・社会主義と国家・選集第六巻・木鐸社

ハート・矢崎光圀監訳・法の概念・みすず（H.L.A.Hart, The Concept of Law, 1961, の訳）

井口大介「ハンス・ケルゼン感傷紀行」法時四八巻三号

伊地知大介「方法二元主義と純粋法学」大東法学三号

兼子義人「ケルゼン『純粋法学』のイデオロギー性」法の科学四号

佐藤立夫「新カント学派とハンス・ケルゼン」早政二四四・二四五号

竹下　賢「法の妥当根拠についての一考察」法叢九九巻二号三号四号五号

多田真鋤「法学思想における政治哲学」多田・政治哲学概論・慶応通信
土屋恵一郎「擬制の問題」明治大大学院紀要一三集一号
土屋恵一郎「擬制と法律言語」思想六二六号
手島　孝「ケルゼニズム考・断章その二」法政四三巻二号（→八一・手島・ケルゼニズム考収）
長尾龍一「二十世紀における『戦争と平和の法』」中央公論九一巻六号（→八〇・長尾・周辺収）
長尾龍一「赤と黒の間で―ヴィーンにおけるハンス・ケルゼン―」エピステーメ二巻五号（→八〇・長尾・周辺収）
長尾龍一「良心について」哲学雑誌九一巻七号（→八一・長尾・斜断収）
長尾龍一「神学・法学・科学」東大教養学部社会科学紀要二五輯（→八〇・長尾・周辺収）
堀内健志「『法律』概念とケルゼン学説」弘前大文化紀要一〇号
松尾敬一「戦中戦後の法思想に関する覚書」神戸法学二五巻三・四号
森田寛二「法規と法律の支配」法学四〇巻一号二号
横田喜三郎・純粋法学論集Ⅰ・有斐閣
善家幸敏・法思想史概論・成文堂
一九七七（昭五二）年
K・森田寛二・長尾龍一訳・法学論・選集第五巻・木鐸社
K・長尾龍一訳・神と国家・選集第七巻・木鐸社
K・長尾龍一訳・ダンテの国家論・選集第八巻・木鐸社
K・上原行雄・長尾龍一・森田寛二・布田勉訳・デモクラシー論・選集第九巻・木鐸社
K・竹下　賢・今井弘道訳「法社会学の基礎づけをめぐって―エールリッヒ対ケルゼンの論争―」法学論集二七巻二号四号二八巻一号
シルト・山口和秀・植松秀雄訳「ケルゼンの純粋法学」岡山法学二六巻三・四号（W. SCHILD, Die Reinen Rechtslehren, Gedanken zu H. KELSEN und R. WALTER, 1975, の訳）
フインチ・田中成明・深田三徳訳・法理論入門・社会思想社（A. D. FINCH, Introduction to Legal Theory, 1970, 2ed. 1974, の訳）
新　正幸「立法過程法の理論」世良晃志郎先生還暦記念(下)
石村　修「法規範学と法社会学」専修法学論集二五号（H.

KELSEN, General Theory of Law and State, 1945, の一二章の訳を含む）

加藤英俊「法規範の『存在』と根本規範」東北法学創刊号

兼子義人「ケルゼン『純粋法学』における『存在』と『当為』について」立命館法学一三二号

清宮四郎「美濃部憲法と宮沢憲法」法学四一巻三号

小林孝輔「国法学における法と政治」青山法学論集一九巻一号

二一巻三・四号（→八〇・小林収）

高橋広次「ケルゼン・ザンダー論争とその展開」九大法学三四号

土屋恵一郎「純粋法学の動態的構造」明治大大学院紀要一四集

土屋恵一郎「純粋法学と諸領域の純粋志向」現代思想五巻九号

長尾龍一「『神々の争い』について」世良晃志郎先生還暦記念

(下)（→八〇・長尾・周辺収）

長尾龍一「シャイロックとケルゼン」現代思想五巻一二号（→八〇・長尾・周辺収）

樋口陽一・現代民主主義の憲法思想・創文社

古野豊秋「憲法裁判の立法的性格とその限界」駒沢大大学院公法学研究三号

森田寛二「イデオロギー批判と国民代表の理論」社会科学の方法一〇巻九号一二号

柳瀬良幹談「柳瀬行政法学の背景」自治研究五三巻三号

横田喜三郎・純粋法学論集Ⅱ・有斐閣

――「宮沢憲法学の全体像」ジュリ六三四号

一九七八（昭五三）年

K・佐藤立夫訳「統合としての国家」早稲田比較法雑誌一三巻一号二号一四巻一号（Der Staat als Integration, 1930, の訳）

新　正幸「法律の実体形成」法時五〇巻八号

天野和夫「法規範の存在的性格と当為的性格」立命館法学一三三号

石村　修「憲法保障制度の基本問題」専修法学論集二七号

上原行雄「法哲学」下村・服部編・哲学研究大系第六巻・河出書房

大塚　滋「純粋法学における法解釈の問題」都立大法学会雑誌一九巻二号二〇巻一号

大塚　滋「純粋法学の『構造』の問題」法哲一九七七

菅野喜八郎・国権の限界問題・木鐸社
菅野喜八郎「ケルゼンの強制秩序概念と授権規範論」法哲一九七七
兼子義人「法の概念構成について」法哲一九七七
駒城鎮一・理論法学の方法・世界思想社
高橋広次「純粋法学における構造問題とその推移」法政四四巻二号
高橋広次「純粋法学における法規範の概念とその批判」法哲一九七七
竹下　賢「法的妥当の概念の三類型」法学論集二八巻二号三号
竹下　賢「法の妥当性と規範性」法哲一九七七
長尾龍一「ケルゼンにおける革命と戦争」東大教養学部社会科学紀要二七輯（→八〇・長尾・周辺収）
長尾龍一「ケルゼン」現代思想六巻八号
Hideo HARA „H. KELSEN und das Studium des Rechts in Japan," in, Der Einfluß der Reinen Rechtslehre auf die Rechtstheorie in verschiedenen Ländern, Schriftenreihe des H. KELSEN-Instituts, Bd. 2.
藤田宙靖・公権力の行使と私的権利主張・有斐閣
藤田宙靖・行政法学の思考形式・木鐸社
宮沢俊義・憲法論集・有斐閣
柳沢謙次「ハンス・ケルゼンの根本規範の一考察」国学院法学九号
吉丸憲之「規範と現実―スメントVSケルゼン『統合』論争―」早稲田公法政治研究七号八号九号
一九七九（昭五四）年
K・長尾龍一訳・プラトニック・ラブ・選集第一〇巻・木鐸社
シルト・福瀧博之訳「純粋法学」A・カウフマン・W・ハッセマー編・浅田他訳・法理論の現在・ミネルヴァ書房（W. SCHILD „Reine Rechtslehre," in, A. KAUFMANN/W. HASSEMER (Hrsg.), Einführung in Rechtsphilosophie und Rechtstheorie der Gegenwart, 1977, の訳）
伊地知大介「法実証主義と憲法第九条」大東法学六号
清宮四郎談「憲法学周辺五〇年」法セ二九〇号
高橋広次・ケルゼン法学の方法と構造・九大出版会
高見勝利「国民と議会」国家九二巻三・四号一一・一二号九三巻二・四号九四巻一・二号

土屋恵一郎「法的実在の世界の発見」法律論叢五一巻二・三号
手島　孝「憲法理論と憲法実践」法時五一巻八号九号一〇号一一号一二号五二巻一号二号三号四号（→八一・手島・ケルゼニズム考収）
徳永賢治「規範と規範文」沖縄法学七号
原　秀男「新カント学派」野田良之・碧海純一編・近代日本法思想史・有斐閣
長谷川日出世「法の妥当性」早稲田法研論集一九号

一九八〇（昭五五）年

K・伊地知大介訳・法と国家の一般理論・第一部法学・学而堂（General Theory of Law and State, 1945, の第一部の訳）
新　正幸「立法条件論」福島大商学論集四九巻三号
鵜飼信成「憲法におけるイデオロギーと科学」公法研究四一号
小林孝輔・憲法における法と政治・学陽書房
高橋広次「『存在法』より展開された自然法論の根本問題」南山法学三巻三号四巻一号二号四号
高橋和之「『イデオロギー批判』を越えて」社会科学の方法一三巻七号
田中成明「法における強制の特質と位置」法叢一〇五巻六号一〇六巻三号
竹下　賢「法における存在と当為―エールリッヒとケルゼンの論争―」法学論集三〇巻二号三二巻一号
Ken TAKESHITA „Recht und Gelten," KANSAI Univ. Review of Law and Politics, vol. 1.
土屋恵一郎「反意志の法理論」法律論叢五二巻四号
長尾龍一・ケルゼンの周辺・木鐸社
長尾龍一「忘我と政治―フロイデアンとしてのケルゼン―」現代思想八巻一〇号（→八一・長尾・斜断収）
長谷川日出世「国内法の妥当根拠と国際法」憲法研究一三号
森田寛二「最近の主権論に関する疑問」Law School 二〇号二一号二二号二四号
柳沢謙次・法哲学研究―ケルゼン法学の科学性をめぐる問題・お茶の水書房
柳沢謙次「法科学における対象と方法」法学新報八七巻一・二号

一九八一（昭五六）年

シュクラー・田中成明訳・リーガリズム・岩波書店（J. N. SHKLAR, Legalism, 1964, の訳）
ペシュカ・天野和夫監訳・現代法哲学の基本問題・法律文化社（V. PESCHKA, Grundprobleme der modernen Rechtsphilosophie, 1974, の訳）
碧海純一・法哲学論集・木鐸社
碧海純一「ハンス・ケルゼンの民主主義論」時の法令一一〇四号
碧海純一「ハンス・ケルゼンの正義論」時の法令一一〇七号
井上　茂・法哲学・岩波書店
井上　茂先生還暦記念・現代の法哲学(上)(下)・有斐閣
今井弘道「思想史的ケルゼン研究・序説」北大法学会論集三二巻一号
井上達夫「法命題の概念に関する若干の考案」東大教養学部社会科学紀要三〇号
鵜飼信成「ハンス・ケルゼンの苦悩と偉大」Law School 二八号
河西直也「国際法における『合法性』の観念」国際八〇巻一号二号
兼子義人「純粋法学とマルクス主義法理論」立命館法学一五〇・一五一・一五二・一五三・一五四号
佐藤立夫「国家理論に関するスメンド対ケルゼンの論争をめぐって」早政一六六・一六七号
高橋広次「純粋法学の根拠への帰向」法の理論創刊号
高見勝利「ハンス・ケルゼンにおけるアメリカ型違憲審査制とオーストリア憲法裁判所」創文二一五号
Ken TAKESHITA „Der Geltungsgrund des Rechts," KANSAI Univ. Review of Law and Politics, vol.2.
手島　孝・ケルゼニズム考・木鐸社
手島　孝「憲法イデオロギーとしての行政論—ケルゼンの場合とシュミットの場合—」法政四七巻二・三・四号（→八一・手島・ケルゼニズム考収）
長尾龍一・思想史斜断・木鐸社
長尾龍一・日本法思想史研究・創文社
長尾龍一「正義論スケッチ」哲学一〇巻三一号（→八一・長尾・斜断収）
長尾龍一「『ケルゼン百年』の周辺」法セ二五巻一二号二六巻一号

長尾龍一「ケルゼン生誕一〇〇年」朝日新聞一二月八日夕刊
長尾龍一・新正幸・高橋広次・土屋恵一郎・新ケルゼン研究・木鐸社
堀内健志「公法上の『組織法（規範）』に関する基本的考察」弘前大文化紀要一四号一五号
Mitsukuni YASAKI „T. OTAKAs Phenomenological Sociology applied to Legal and Political Philosophy," OSAKA Univ. Law Review, vol. 28.